

ダニエレ スキューマ



ダニエレ スキューマ
法学博士 理学修士 (物理学)

ドイツ弁理士
欧州特許弁理士
欧州商標弁理士
パートナー (PartGG上)

1968 年 ルクセンブルク, ルクセンブルグ

言語: ドイツ語, 英語, フランス語, イタリア語

専門分野: 物理学, 機械工学, 情報科学 & ソフトウェア, 医用工学

✉ schiума@mueller-bore.de

履歴

スキューマ氏はミュンヘン大学 (Ludwig-Maximilians-Universität München) にて物理学を専攻し、スイス、ジュネーブの国際研究センターCERNでの素粒子物理学に関する論文で修士課程を修了する。イタリア政府からの奨学金授与を受け、イタリア国立ピサ高研究院 (Scuola Normale Superiore di Pisa) において物理学の研究を進める。さらにCERNからの奨学金によって、同所で分光分析の分野におけるコンピュータ支援によるプロトン励起反応の断面測定に関する研究を行う。また、チュービンゲン大学 (Eberhard-Karls-Universität Tübingen) でも物理学の研究を行う。マックス・プランク知的財産法・競争法・租税法研究所 (Max-Planck-Institut für ausländisches und internationales Patent-, Urheber- und Wettbewerbsrecht, 現Max-Planck-Institut für Geistiges Eigentum, Wettbewerbs- und Steuerrecht) およびミュンヘン大学で博士課程に就く。ゲアハルト・シュリッカー教授の指導の下、論文「ヨーロッパ、ドイツ、イタリアの特許法における特許請求範囲の策定と解釈」を発表し法学における博士号を取得する。彼の博士論文は、マックス・プランク研究所の産業財産法に関するシリーズ刊行物の第113巻に掲載されている。

当ミュラーボレおよびドイツ特許商標庁、ドイツ連邦特許裁判所、ミュンヘン地方裁判所にて実務経験を重ね、1997年にドイツ弁理士資格、1998年に欧州特許弁理士資格を取得。1993年に当ミュラーボレに加わり、1997年にパートナーとなり現在に至る。

それ以前に、イタリア国立ピサ高研究院、ジュネーブの国際研究センターCERNおよびピサのイタリア国立核物理研究所 (Istituto Nazionale di Fisica Nucleare) で研究助手として経験を重ね、またエアランゲンのシーメンス社 (Siemens AG) の医療技術部でも勤務経験がある。また、ソフトウェア特許性についての専門家としてドイツ連邦議会 (Bundestag) の委員会公聴会およびドイツ連邦司法省 (Bundesjustizministerium) により任命される。

専門分野

専門分野は物理学、コンピュータ関連の発明、機械工学 (中でも自動車技術、エンジン技術、トランスミッション技術、スポーツ器具技術および医療機器技術) などである。法学的専門分野は、職務発明法も含む。